

# **富士箱根伊豆国立公園 満喫プロジェクト推進方策**

**2019（平成31）年4月**

**環境省関東地方環境事務所  
富士箱根伊豆国立公園管理事務所**

## はじめに

環境省では政府が2016（平成28）年3月にとりまとめた「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化を図ることを目標に「国立公園満喫プロジェクト」を進めており、8箇所の国立公園において2020年までに訪日外国人を惹きつける取組を先行的・集中的に実施することとしている。また、2017（平成29）年度からは満喫プロジェクト展開事業として全国10団体への支援を実施しており、富士箱根伊豆国立公園では富士宮市の事業が採択され、外国人をターゲットとした山麓地域の利用促進に向けた取組（プロモーション動画の製作、海外へのプロモーション展開等）が進められている。

2018（平成30）年9月には、同年7月の国立公園満喫プロジェクト中間評価を経て、同プロジェクトの今後の進め方に関するとりまとめを行った。その中で、外国人利用者数が多い富士箱根伊豆国立公園、支笏洞爺国立公園及び中部山岳国立公園は「8公園に準じる公園」として位置づけられ、関係者と連携した総合的な施策を展開するなど重点的に取り組むとされた。

2019（平成31）年3月には、富士山における適正利用推進協議会（事務局：環境省、山梨県、静岡県）において、「富士山における適正利用推進プログラム」が策定された。同プログラムでは、富士山における安全かつ快適な利用を推進するため、外国人を含めた利用者への情報提供・普及啓発の促進・強化を図るとされている。

「富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクト推進方策」は、以上のような富士箱根伊豆国立公園を取り巻く状況の変化、利用の現状及び関係機関等における取組状況等を踏まえ、2020年までに、環境省（富士箱根伊豆国立公園管理事務所）が関係機関等と連携・協力して、同公園において国立公園満喫プロジェクトを推進するための取組の方向性をとりまとめたものである。

## 目 次

---

### はじめに

1. 現状分析.....	1
(1) 富士箱根伊豆国立公園の概要.....	1
(2) 富士箱根伊豆国立公園の資源の特色.....	2
(3) 富士箱根伊豆国立公園の利用状況.....	7
(4) 観光推進に関する計画等の概要.....	14
2. 基本的な考え方.....	19
3. 国立公園満喫プロジェクトの推進方策.....	20
(1) 全域.....	20
(2) 富士山地域.....	23
(3) 箱根地域.....	27
(4) 伊豆半島地域.....	31
(5) 伊豆諸島地域.....	32

## 1. 現状分析

### (1) 富士箱根伊豆国立公園の概要

富士箱根伊豆公園は、富士山を北端として富士火山帯に属する各種火山地形や温泉、変化に富む海岸線、島嶼からなる日本を代表する国立公園である。富士山を中心にその周辺の湖沼や高原を含む「富士山地域」、東海道の宿場町で古くから温泉地として名高い「箱根地域」、天城連山と変化に富んだ海岸線が魅力の「伊豆半島地域」、火山活動が活発な洋上の島々からなる「伊豆諸島地域」の4地域で構成され、東京都、神奈川県、山梨県及び静岡県の1都3県にまたがる(面積：121,749ha)。

その歴史は古く、1936(昭和 11)年2月に「富士箱根国立公園」として指定され、1955(昭和 30)年3月に伊豆半島地域の編入及び「富士箱根伊豆国立公園」への名称変更、1964(昭和 39)年7月に伊豆諸島地域の編入が行われた。

2016(平成 28)年における富士箱根伊豆国立公園の利用者数は1億2,784万人、2017(平成 29)年における訪日外国人観光客利用者数は258万人であり、いずれも国内の国立公園で最も多い。



富士箱根伊豆国立公園区域図

## （２）富士箱根伊豆国立公園の資源の特色

富士箱根伊豆国立公園内の観光資源について、公益財団法人日本交通公社による「全国観光資源台帳」※<sup>1</sup>のデータを元に抽出・整理した。

資源分類		評価		
自然資源	人文資源	ランク	基準・内容	代表資源名
山岳	史跡	特Ａ級	我が国を代表する資源で、かつ世界にも誇示しうるもの。我が国のイメージ構成の基調となりうるもの	富士山 摩周湖 法隆寺 姫路城 祇園祭 他
高原・湿原・原野	神社・寺院・教会			
湖沼	城跡・城郭・宮殿			
河川・峡谷	集落街	Ａ級	特Ａ級に準じ、その誘致力は全国的で、観光重点地域の原動力として重要な役割を持つもの	芦ノ湖 天橋立 清水寺 高山の街並み 他
滝	郷土景観			
海岸・岬	庭園・公園			
岩石・洞窟	建造物	Ｂ級	地方スケールの誘致力を持ち、地方のイメージ構成の基調となりうるもの	筑波山 浜名湖 高山の朝市 他
動物	年中行事			
植物	動植物園・水族館			
自然現象	博物館・美術館	Ｃ級	主として、県民及び周辺地域住民の観光利用に供するもの	身延山 石神井池 広島城跡 他
	テーマ公園・テーマ施設			
	温泉			
	食	Ｄ級	地域住民の利用	
	芸能・興行・イベント			

全国観光資源台帳における資源分類・評価基準（公益財団法人日本交通公社）

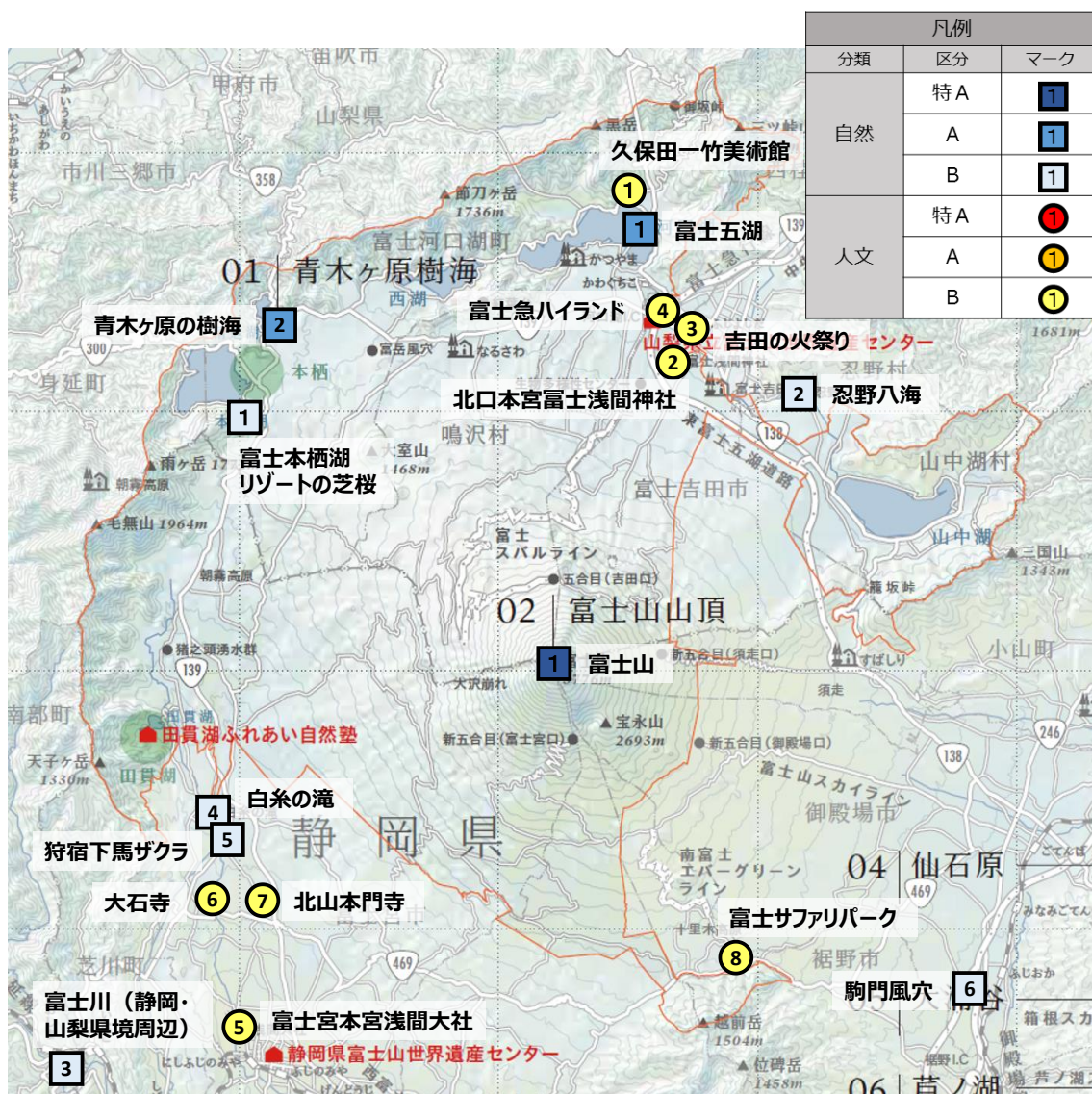
※<sup>1</sup>：全国観光資源台帳

全国の観光資源を対象に統一の基準で「資源ランク」を評価したもので、「都道府県名」、「市町村名」、「自然・人文の区別」、「種別名称」、「資源名称」と合わせてデータベース化が行われている。

## ＜富士山地域＞

富士山地域は、山梨県と静岡県にまたがる5市4町3村の面積60,645haの地域である。富士山を中心として、東に石割山、西に長者ヶ岳、南に越前岳、北に三つ峠山等の山々に囲まれ、富士五湖と称される山中湖等の湖沼群、富士山麓の溶岩流上に広がる青木ヶ原樹海など、山岳、湖沼及び山林の一体的景観を呈する。

同地域内（周辺を含む）の観光資源では、特A級資源の「富士山」を筆頭に、自然資源では「富士五湖」と「青木ヶ原の樹海」がA級となっている。その他、自然資源では「富士川」や「白糸の滝」など6つ、人文資源では「北口本宮富士浅間神社」や「吉田の火祭り」など8つがB級となっており、富士山を中心に自然資源と人文資源の双方の資源が豊富な地域である。



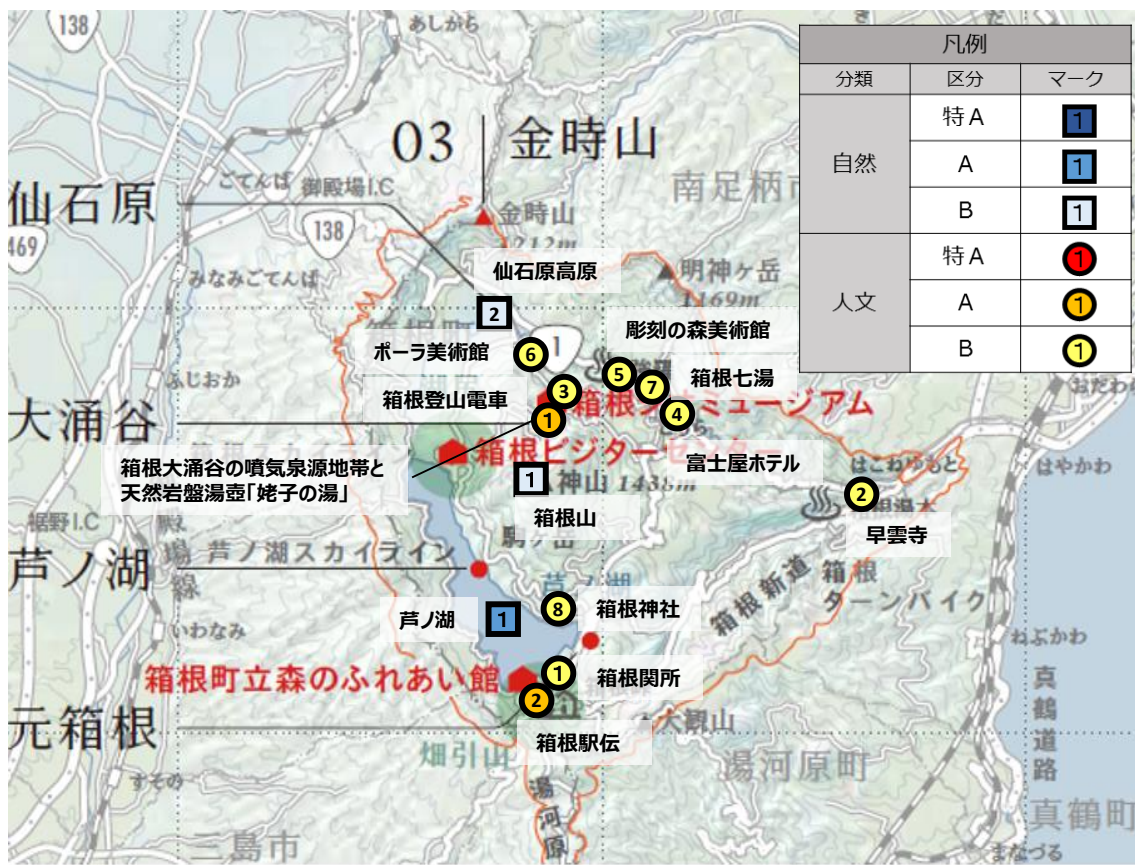
全国観光資源台帳による資源分布（富士山地域）



## ＜箱根地域＞

箱根地域は、神奈川県と静岡県にまたがる5市3町の面積11,166haの地域で、そのほとんどを神奈川県箱根町が占めている。地域は箱根カルデラとほぼ一致し、カルデラ内には芦ノ湖・仙石原を中心とする火口原部、神山・駒ヶ岳を中心とする中央火口丘部、早川・須雲川により深く刻まれた溪谷部の三つの景観要素があり、いずれも変化に富む景観を有している。2012（平成24）年には、箱根山を中心とした独特の火山地形や多様な動植物、特色ある文化・産業が評価され、日本ジオパークに認定された。

同地域内には、13件のB級以上観光資源を有し、そのうち自然資源1件（芦ノ湖）、人文資源2件（箱根大涌谷の噴気泉源地帯と天然岩盤湯壺「姥子の湯」、箱根駅伝）がA級となっている。自然資源だけでなく、神社や美術館等の人文資源にも恵まれた地域である。

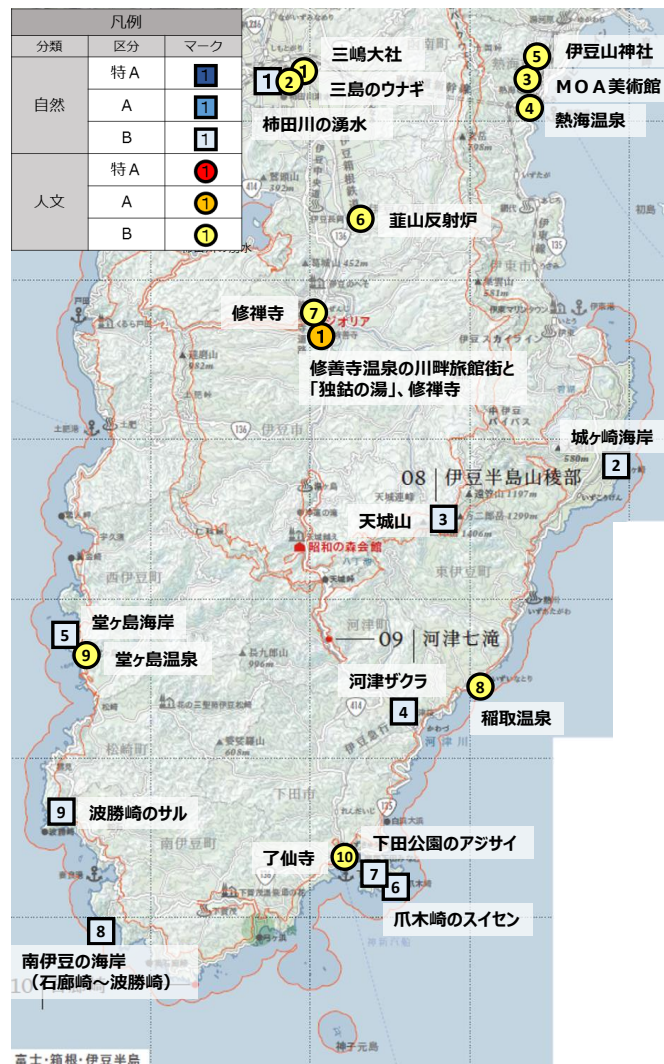


全国観光資源台帳による資源分布（箱根地域）

## ＜伊豆半島地域＞

伊豆半島地域は、静岡県内の6市6町にまたがる面積22,439haの地域で、伊豆半島の山稜部と海岸線からなっている。山稜部は、函南山及び十国峠を含む伊豆スカイライン沿線からほぼ東西に連なる天城連山を経て、達磨山及び戸田峠等の西伊豆スカイライン沿線に至るU字形の一帯である。海岸線は、東は相模湾に開け初島や伊豆大島を遠景に配し、南端の石廊崎、西は堂ヶ島、黄金崎、大瀬崎など富士山の眺望と変化に富んだ海岸景観を有する。2018（平成30）年4月には、伊豆半島の恵まれた地質資源と地質に育まれた自然・文化の保全活用が評価され、世界ジオパークに認定された。

同地域内には、20 件の B 級以上観光資源を有し、そのうち人文資源 1 件（修善寺温泉）が A 級となっている。地域内に点在する豊富な温泉も含め、観光資源は多様性に富んでいる。



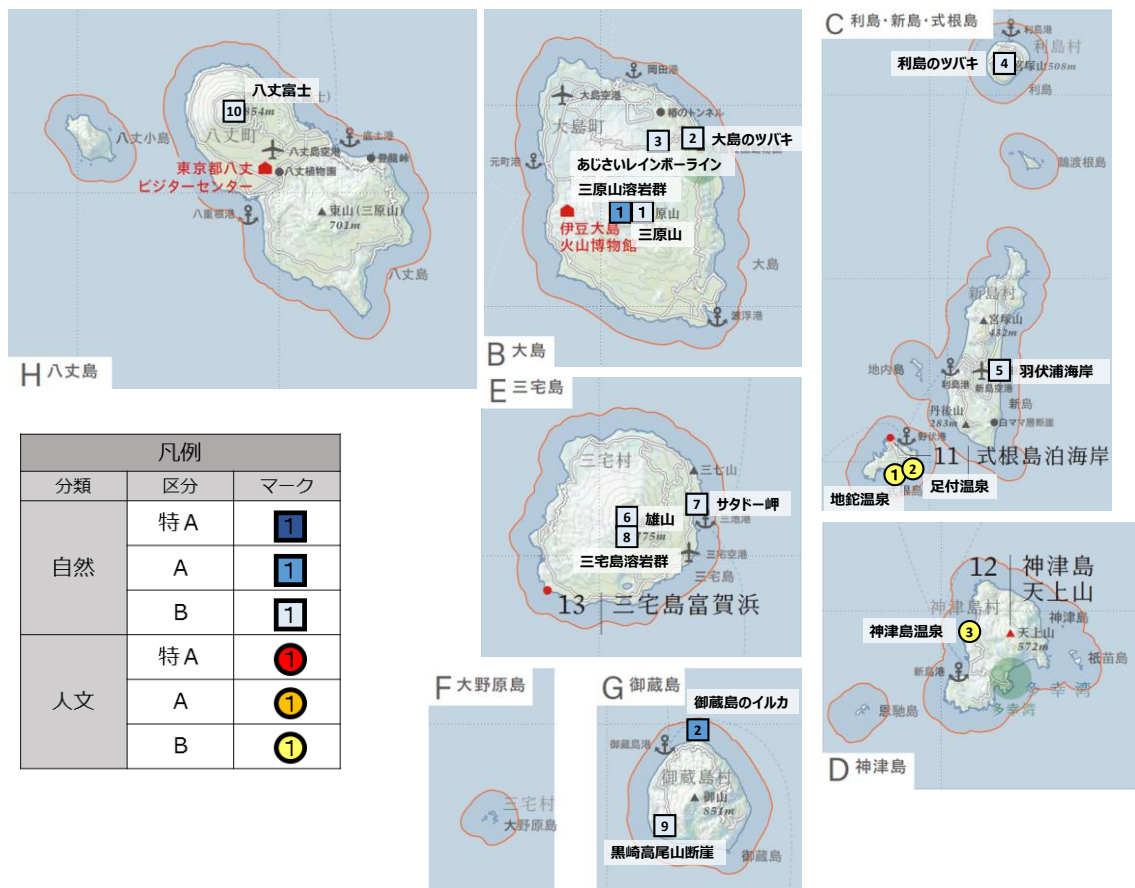
全国観光資源台帳による資源分布（伊豆半島地域）



## ＜伊豆諸島地域＞

伊豆諸島地域は、東京都の2町5村にまたがる面積 27,499 ha の地域で、東京からほぼ南 120～290km の太平洋に点在するそれぞれ特色ある火山島（大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島等）である。大島と三宅島では現在も火山活動が活発で、新旧の溶岩により様々な火山地形が見られる。2010（平成 22）年には、大島の三原山を中心とする活火山の特質等が評価され、日本ジオパーク（伊豆大島ジオパーク）に認定された。

同地域内には、15 件の B 級以上観光資源を有し、そのうち自然資源 2 件（三原山溶岩群、御蔵島のイルカ）が A 級となっている。島しょ地域特有の地形（山岳、海岸・岬、岩石・洞窟）や動植物など、自然資源が豊富な地域である。



全国観光資源台帳による資源分布（伊豆諸島地域）

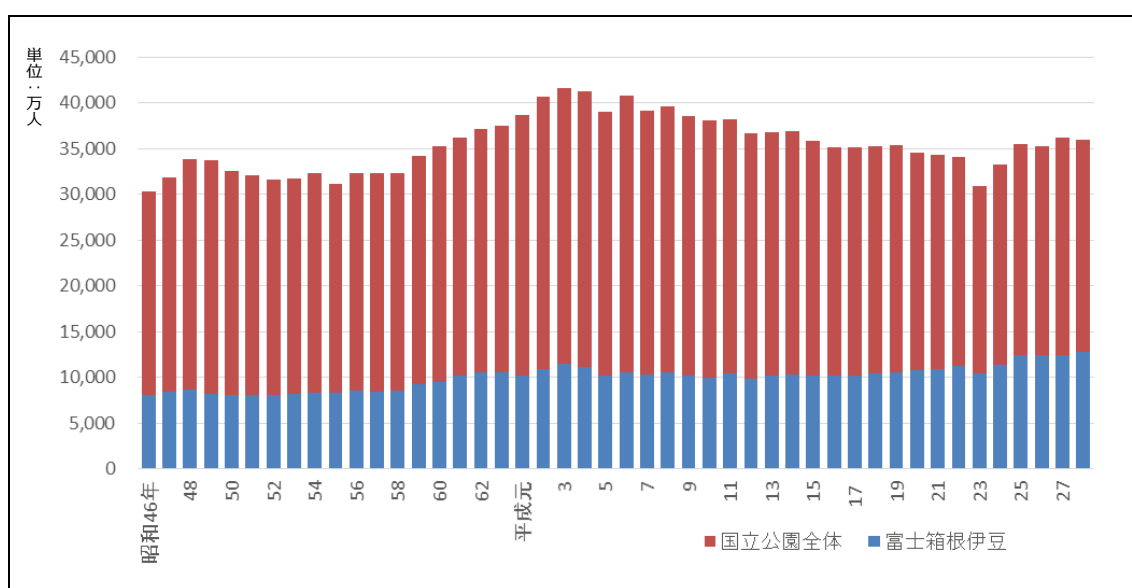
### (3) 富士箱根伊豆国立公園の利用状況

#### <全域>

#### ① 利用者数

2016（平成 28）年の富士箱根伊豆国立公園の利用者数は 1 億 2,784 万人（前年比 102.9%）であり、国内の国立公園で最も多く、国立公園全体の利用者数（3 億 5,916 万人）の約 3 割を占める。

長期的には、国立公園全体の利用者数は 1991（平成 3）年のピーク以降やや減少から横ばいの傾向であるが、富士箱根伊豆国立公園はやや増加傾向となっている。



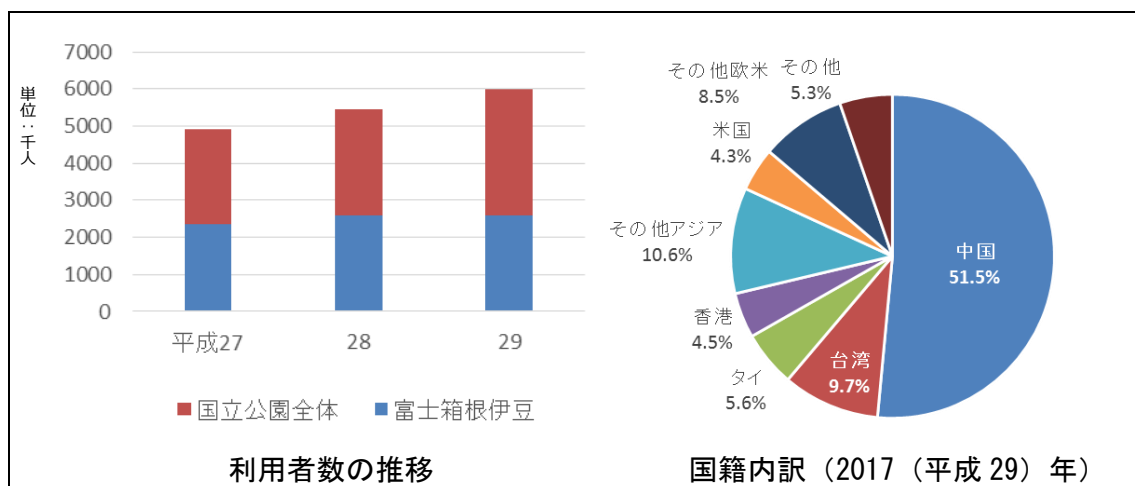
全国立公園及び富士箱根伊豆国立公園利用者数の推移

出典：自然公園等利用者数調（環境省）

#### ② 訪日外国人利用者数及び国籍

観光庁「訪日外国人消費動向調査」の調査票情報を利用して推計された、2017（平成 29）年の富士箱根伊豆国立公園の訪日外国人実利用者数は 2,580 千人（前年比 100.1%）であった。①と同様に国内の国立公園で最も多く、国立公園全体の訪日外国人実利用者数（6,001 千人）の約 4 割を占める。推計を始めた 2015（平成 27）年以降、国立公園全体の訪日外国人実利用者数は増加傾向にあるが、富士箱根伊豆国立公園は横ばいとなっている。

同データによる富士箱根伊豆国立公園の国・地域別内訳では、「アジア系」が 81.9%、「欧米系」が 12.9%となっている。最も多いのは「中国」の 51.5%、次いで「台湾」9.7%、「タイ」5.6%、「香港」4.5%、「米国」4.3%であり、中華系が大きな割合を占めていることが分かる。



### 国立公園及び富士箱根伊豆国立公園における訪日外国人利用者

出典：第9回国立公園満喫プロジェクト有識者会議 資料（環境省）

### ③ 利用者の特徴（利用者の質の指標に係る調査結果）

2018（平成30）年度に富士箱根伊豆国立公園を訪問した利用者の国立公園滞在に対する満足度において、7段階評価で最も評価の高い「大変満足」とした回答割合は、日本人：35.3%、外国人：56.6%となった。同様の調査を行った11公園の平均と比較すると、外国人の評価は高く、日本人の評価は比較的低い結果となっている。他人への推奨意向からも同様の結果が得られている。

また、公園内での支出額は、日本人：約2万円、外国人：約6万7千円となり、外国人は11公園平均とほぼ同程度であるが、日本人は大きく下回っている。宿泊数も同様に、外国人は11公園平均とほぼ同程度で、日本人は大きく下回る。リピーターの割合は、日本人で90.4%と非常に高く、外国人も36.0%となっており、11公園平均と比較するとその割合は高い。

		日本人		外国人	
		11公園平均	富士箱根伊豆	11公園平均	富士箱根伊豆
<b>満足度</b>	「大変満足」と回答した割合 (%)	45.2	35.3	48.5	56.6
<b>推奨意向</b>	「必ず薦めたい」と回答した割合 (%)	41.4	29.8	64.6	63.3
<b>支出額</b>	宿泊、飲食、交通、アクティビティ、他娯楽、買い物、その他の合計額 (円)	32,074	20,370	63,608	66,829
<b>宿泊数</b>	公園内に宿泊した泊数 (泊)	1.3	0.5	1.9	1.8
<b>リピーター率</b>	2回目以降の訪問者の割合 (%)	63.8	90.4	15.7	36.0

### 国立公園における利用者の指標に係る調査結果

出典：第10回国立公園満喫プロジェクト有識者会議 資料（環境省）

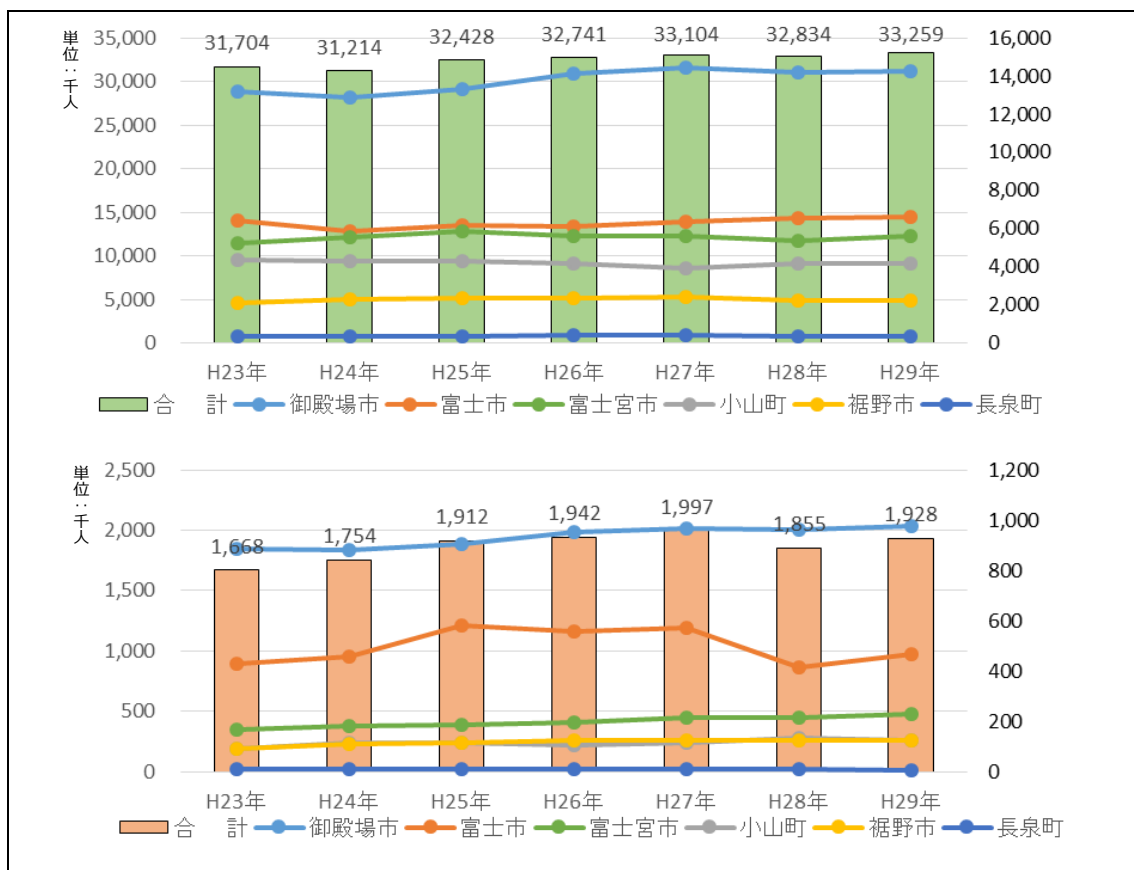
## ＜富士山地域＞

### ① 静岡県

2017（平成 29）年度の静岡県における観光交流客数は 1 億 5,648 万人で、そのうち富士山地域を含む「富士地域」は 3,326 万人（前年比 101.3%）であった。なお、富士地域の地域別内訳は、多い順に「御殿場市」1,426 万人、「富士市」663 万人、「富士宮市」563 万人、「小山町」415 万人、「裾野市」223 万人、「長泉町」36 万人となっている。近年の「富士地域」における観光交流客数は横ばいの傾向となっている。

2017（平成 29）年度の静岡県における宿泊客数（延べ泊数）は 1980 万人で、「富士地域」は 193 万人（前年比 104.0%）であった。観光交流客数と同様に、「御殿場市」における宿泊客数が最も多い。近年の「富士地域」における宿泊客数も横ばいの傾向となっている。

同地域における外国人客数に関するデータはないが、関係市町村担当課へのヒアリングによれば、東京あるいは静岡空港経由での外国人客が近年増加しているとのことである。



静岡県（富士地域）の観光交流客数・宿泊客数（延べ泊数）の推移

出典：静岡県観光交流の動向（静岡県）

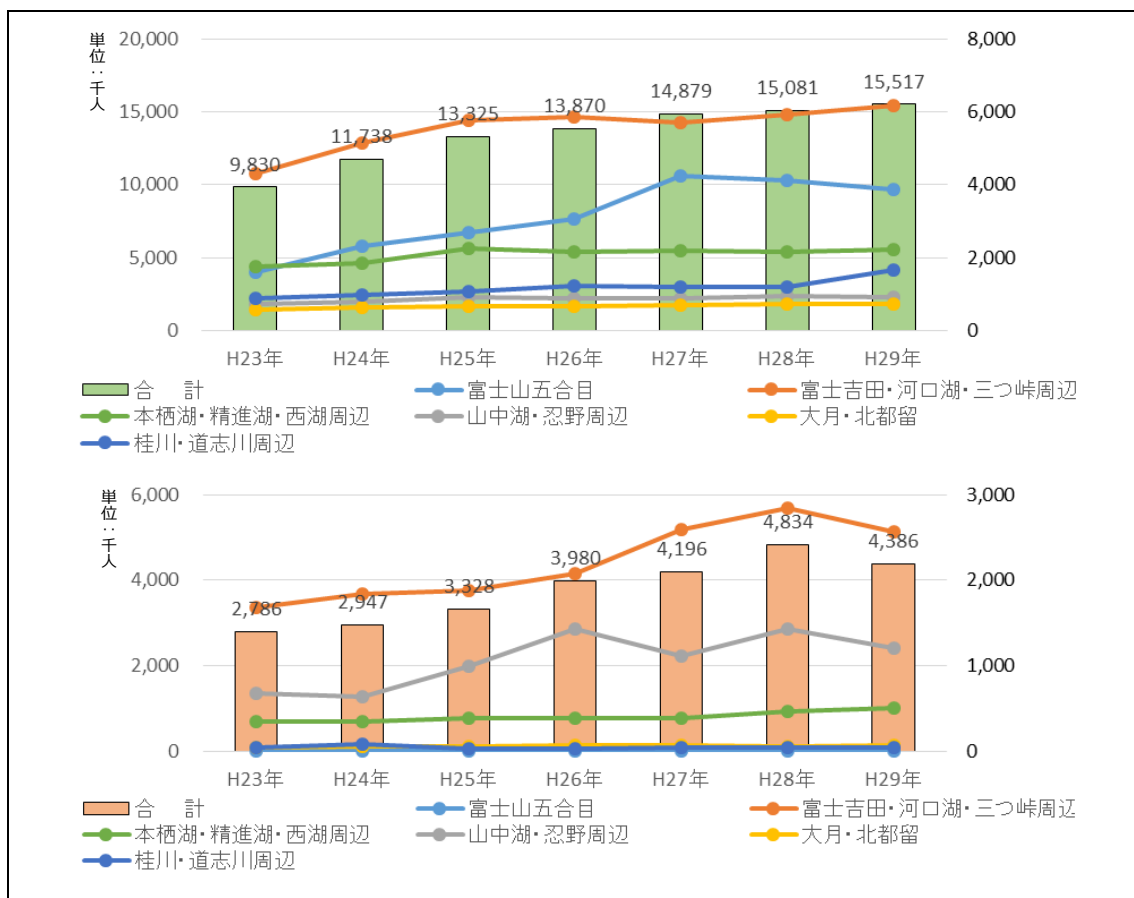


## ② 山梨県

2017（平成 29）年の山梨県における観光入込客数は 3,216 万人で、そのうち富士山地域を含む「富士・東部圏域」では 1,552 万人（前年比 102.9%）であった。なお、富士・東部圏域内の地域別内訳は、多い順に「富士吉田・河口湖・三つ峠周辺」616 万人、「富士山五合目」387 万人、「本栖湖・精進湖・西湖周辺」221 万人、「桂川・道志川周辺」165 万人、「山中湖・忍野周辺」90 万人、「大月・北都留」72 万人となっている。近年における「富士・東部圏域」の観光入込客数は増加傾向にあり、「富士吉田・河口湖・三つ峠周辺」及び「富士山五合目」における増加の影響が大きい。

2017（平成 29）年の山梨県における宿泊観光客数（実人数）は 820 万人で、「富士・東部圏域」は 439 万人（前年比 90.7%）であった。直近は前年比減少となったものの、入込客数同様、近年は増加傾向にある。

県全体の外国人宿泊者は 147 万人であり、そのうち「富士・東部圏域」で 118 万人と多くを占める。関係市町村担当課へのヒアリングによれば、富士山及び河口湖周辺で外国人観光客の増加が顕著とのことである。



山梨県（富士・東部圏域）の観光入込客数・宿泊客数（実人数）の推移

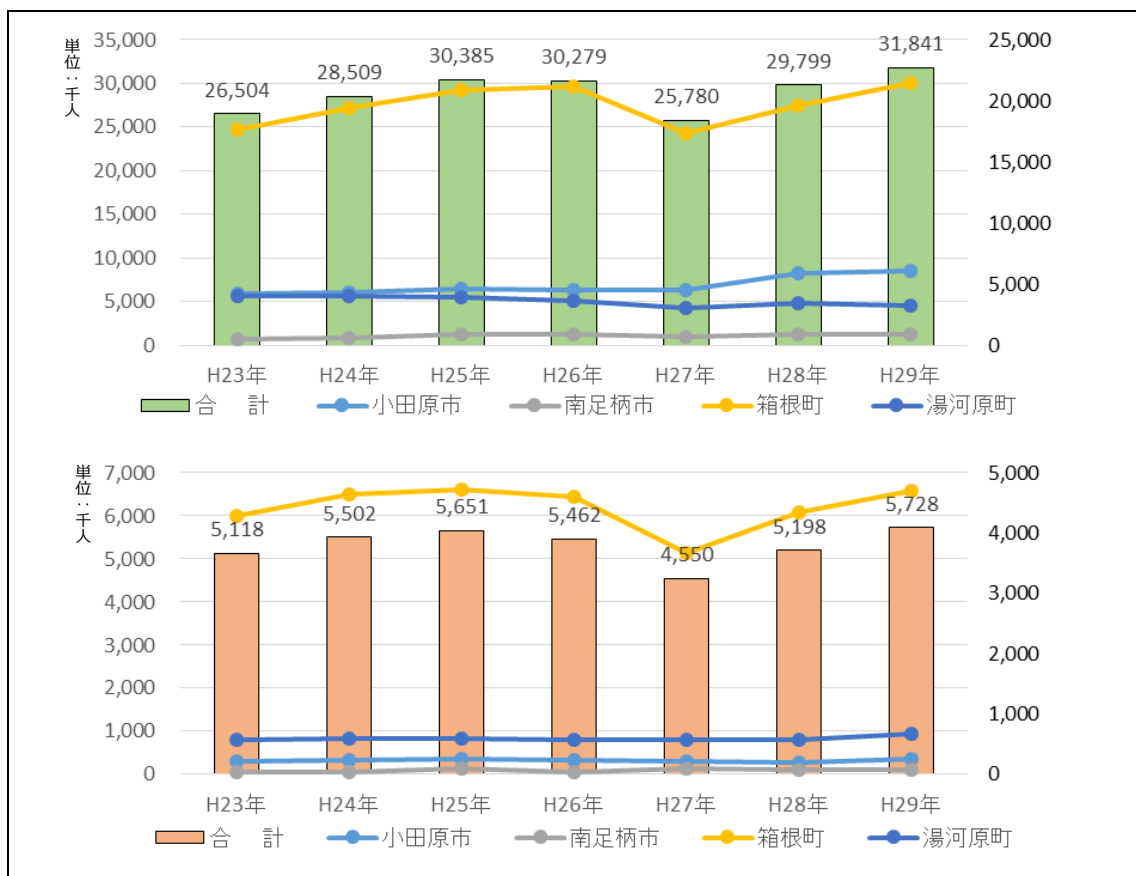
出典：山梨県観光入込客数統計調査報告書（山梨県）

## ＜箱根地域＞

2017（平成 29）年の神奈川県における入込観光客数は 2 億 69 万人で、そのうち箱根地域を含む「4 市町村（小田原市、南足柄市、箱根町、湯河原町）」は 3,184 万人（前年比 106.9%）であった。2015（平成 27）年に大涌谷周辺の火山活動活発化の影響を受けて減少したが、以降は増加傾向にあり現在は同年以前の水準を上回っている。なお、4 市町村の地域別内訳は、多い順に「箱根町」2,152 万人、「小田原市」612 万人、「湯河原町」331 万人、「南足柄市」90 万人となっている。

2017（平成 29）年の神奈川県における宿泊観光客数は 1,665 万人で、4 市町村は 573 万人（前年比 110.0%）であった。入込観光客数と同様に増加傾向にあり、2015（平成 27）年の落ち込み以前の水準まで回復している。

「平成 29 年箱根町観光客実態調査報告書」によると、箱根町における宿泊観光客数 469 万人のうち外国人は 55 万人となっており、関係市町村担当課へのヒアリングによれば、箱根地域における外国人観光客は増加傾向とのことである。



小田原市・南足柄市・箱根町・湯河原町の観光入込客数・宿泊客数の推移

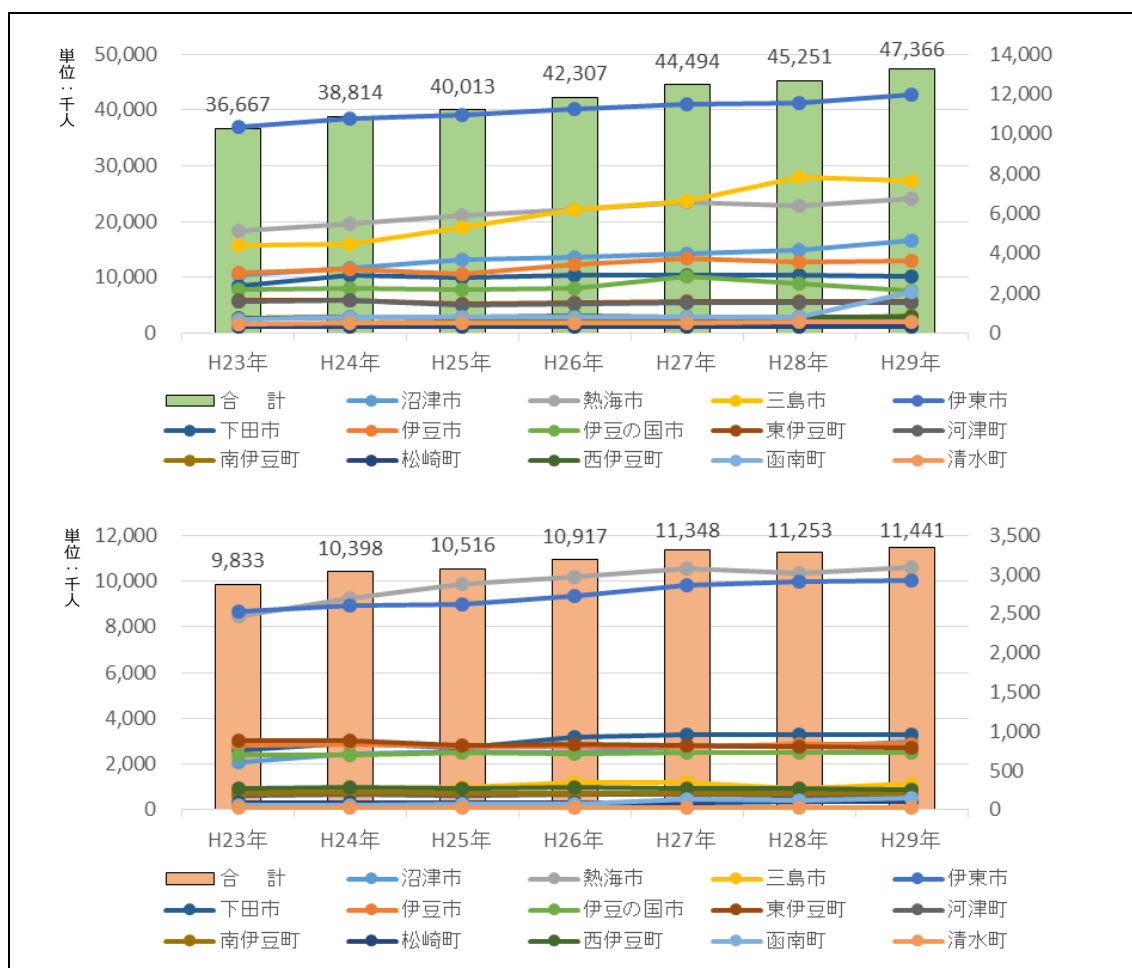
出典：神奈川県入込観光客調査報告書（神奈川県）

## ＜伊豆半島地域＞

2017（平成 29）年度の「伊豆地域」における観光交流客数は 4,737 万人（前年比 105%）であり、2011（平成 23）年度以降増加傾向が続いている。なお、伊豆地域内の地域別内訳は、多い順に「伊東市」1,197 万人、「三島市」767 万人、「熱海市」677 万人、「沼津市」462 万人、「伊豆市」364 万人、「下田市」283 万人、「伊豆の国市」213 万人、「函南町」207 万人、「東伊豆町」158 万人、「河津町」153 万人、「南伊豆町」90 万人、「西伊豆町」78 万人、「清水町」54 万人、「松崎町」33 万人となっている。

2017（平成 29）年度の「伊豆地域」における宿泊客数は 1,144 万人（前年比 102%）であり、「熱海市」及び「伊東市」の占める割合が高い。

外国人に関する統計データはないが、関係市町村担当課へのヒアリングによれば、伊豆半島地域全体で外国人観光客の訪問及び宿泊は増加傾向とのことである。



静岡県（伊豆地域）の観光入込客数・宿泊客数の推移

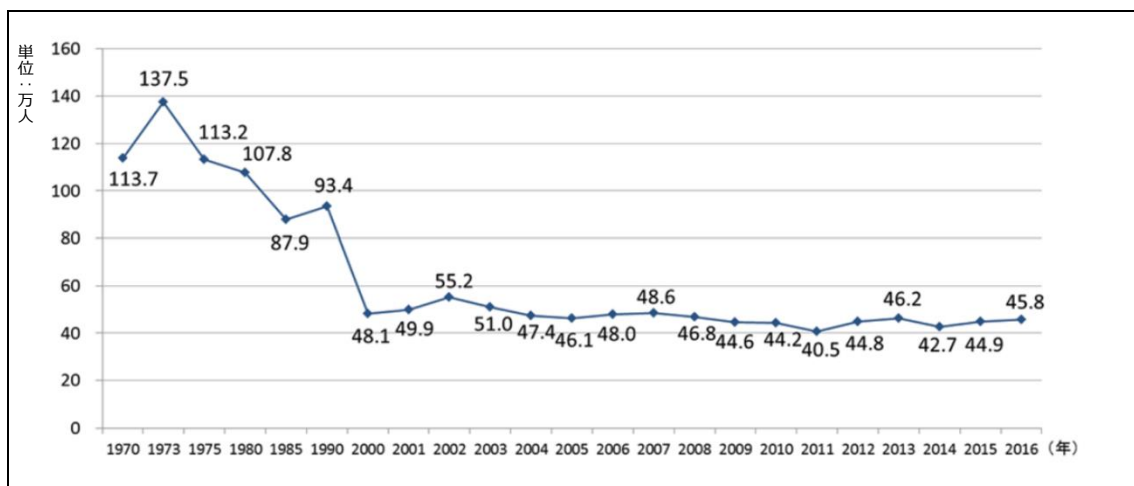
出典：静岡県観光交流の動向（静岡県）

### ＜伊豆諸島地域＞

2016（平成 28）年に伊豆諸島を含む「島しょ地域（伊豆諸島・小笠原諸島）」を訪れた観光客数は 45.8 万人で、1970 年代には 100 万人以上の観光客が訪れていたものの、2000（平成 12）年以降は 40 万人台で横ばいとなっている。

また、東京都による「平成 28 年度国別外国人旅行者行動特性調査」によれば、東京都を訪れた外国人旅行者のうち「島しょ地域（伊豆諸島・小笠原諸島）」を訪問した人の割合は 0.8%となっており、都内の訪問スポットの中では「青梅・御岳山（0.4%）」、「奥多摩（0.6%）」に次いで訪問率が低くなっている。

関係市町村担当課及び関係機関へのヒアリングによれば、外国人観光客が増加傾向にある島が増えてきているものの、現時点ではそれほど大きな動きにはなっていないとのことである。



### 伊豆諸島・小笠原諸島の観光客数の推移

出典：伊豆諸島・小笠原諸島観光客入込実態調査報告書（東京都）  
（PRIME 観光都市・東京～東京都観光産業振興実行プラン 2018～）



#### (4) 観光推進に関する計画等の概要

##### ＜富士山地域＞

静岡県「静岡県観光躍進基本計画」では、2021年度目標として、観光交流客数はやや増加の「1億7,000万人（2016（平成28）年度実績1億5,294万人）」、外国人宿泊数はほぼ倍増の「300万人泊（2016（平成28）年度実績157万人泊）」を掲げている。静岡県では、富士山地域よりも伊豆半島地域での観光客の受入が多くなっており、富士山地域では最大の魅力である豊かな自然環境を適切に保全し、観光客の持続的な誘客を促進するとともに、大規模な娯楽施設等に偏っている来訪者を回遊させることが課題となっている。

山梨県「やまなし観光推進計画」では、2018（平成30）年目標として観光客数「3,110万人（2011（平成23）年比21%増）」、外国人宿泊客数「140万人（2011（平成23）年比2.3倍）」を掲げている。山梨県では、富士山地域が県内における観光の中心となっており、富士山地域から県内他地域への回遊促進を図ることが課題となっている。

両県ともに世界文化遺産としての富士山の保全・活用の取組を連携して進めており、それぞれの世界遺産センターを通じての普及啓発・情報発信や、各種整備、調査研究等を行っている。



静岡県・山梨県の富士山世界遺産センター

静岡県富士宮市では、インバウンド誘客に向けて、2015（平成 27）年度以降、地元施設や関係団体へのアンケート・ヒアリング、海外旅行会社調査、先進地調査等の実態調査を開始し、その結果等を踏まえ、インバウンド着地型商品開発、販売に向けた準備及び受入体制構築等の取組を段階的に進めてきた。そうした中、富士宮市は 2017（平成 29）年度から「国立公園満喫プロジェクト展開事業」に取り組み、プロモーション動画や多言語パンフレット等のセールスツールの制作を行った。現在は、同ツールを活用して、国内及び海外における旅行展示会等でのセールス活動を展開している。そのターゲットは、台湾・香港、シンガポール・タイ（県海外事務所と連携）、オーストラリア・ニュージーランド（静岡ツーリズムビューローと連携）等を設定し、多角的に展開している。

山梨県富士吉田市では、市内への周遊促進を目的として、自然だけでなく、歴史・文化、産業、地域の人との触れ合いをキーワードにした様々な着地型旅行商品の造成に取り組んでいる。また、麓から登山の推進にも力を入れており、吉田口登山道の歴史を解説するアプリを作成している。富士河口湖町では、河口湖周辺に利用が偏っている現状がある。今後、富士宮市と連携し、精進湖・本栖湖を擁する西麓エリアへの周遊を促すため、東海自然歩道を活用したトレッキング拠点の整備、二次交通の充実化等に取り組むこととしている。



富士宮市の多言語パンフレット

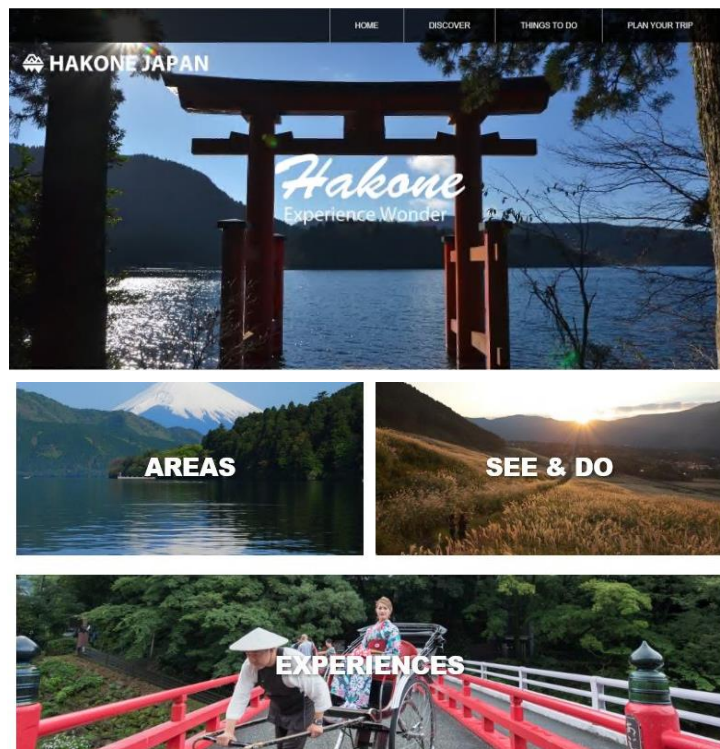
## ＜箱根地域＞

箱根町では、行政機関、町議会、観光事業者及び観光関係団体等により構成される「箱根町 HOT21 観光プラン推進委員会」において、2018（平成 30）年 3 月に同町の観光施策をまとめた「第 2 次箱根町 HOT21 観光プラン基本計画（計画期間：2018－2027 年度）」を策定した。

また、2018（平成 30）年 4 月には、「一般財団法人箱根町観光協会」が「箱根 DMO（一般財団法人箱根町観光協会）」となり、箱根の観光地経営を担う DMO としての活動をスタートさせた。

箱根 DMO では、2030 年度の目標値として、観光入込客数「21,926 千人（2017（平成 29）年比 1.9%増）」、延べ宿泊者数「4,855 千人（2017（平成 29）年比 3.4%増）」、外国人延べ宿泊客数「1,027 千人（2017（平成 29）年比 1.9 倍）」を掲げている。

誘客の主要なターゲットとして「首都圏（東京都・神奈川県・千葉県・埼玉県）」を掲げ、今後開拓・拡大が期待されるターゲットとして「欧米豪、近隣アジア、東南アジア新興市場からの個人旅行者」を挙げている。今後、各種マーケティング調査等を行い、さらに詳細な戦略の立案、具体的な取組を進めていくこととしている。



箱根 DMO ウェブサイト「HAKONE JAPAN」  
(<https://hakone-japan.com/>)



### ＜伊豆半島地域＞

伊豆半島地域では、伊豆を一体的に捉えた長期的視点による地域づくりを推進するため、各市町・交通事業者・観光協会で構成する「美しい伊豆創造センター」を設立している。同センターでは、2018（平成 30）年 3 月に、今後の取組事項をまとめた指針として「伊豆半島観光戦略（計画期間：2018－2020 年度）」を策定した。

同戦略では、2020 年度の目標値として、観光入込客数「51,382 千人」、延べ宿泊者数「12,777 千人」を設定しており、いずれも 2016（平成 28）年度実績の 110%の伸びを目指している。外国人観光客に関する目標設定はない。

誘客のターゲットとしては 5 つ、「台湾・香港を中心とした東アジア、20～40 代の個人旅行者」、「欧米豪のオリンピック及びラグビー W 杯を契機に来日するアッパー層」、「国内新規顧客」、「リピート顧客」、「東南アジア」を掲げており、各種マネジメント、マーケティング、イノベーションの取組を関係者連携の下で実施していくこととしている。

伊豆半島ジオパーク推進協議会では、インバウンド対応としてウェブサイトの多言語化、欧米系ハイカー向けのプロモーション動画作成に取り組んでいる。また、静岡ディスティネーションキャンペーンに向けて、伊豆半島ジオガイド協会による着地型旅行商品造成も進めている。



伊豆半島ジオパークウェブサイト

(<https://izugeopark.org/>)



### ＜伊豆諸島地域＞

東京都では、2019（平成 31）年 2 月に「P R I M E 観光都市・東京 東京都観光産業振興実行プラン～東京 2020 大会に向けた重点的な取組～」を策定し、その中で「多摩と島しょへの来訪者の確保」を掲げ、島しょ部（伊豆諸島・小笠原諸島）における観光振興を図ることとしている。

同プランでは、2020 年に都全体で 2,500 万人の外国人旅行者（欧米豪 500 万人、東アジア 1,550 万人、東南アジア＋インド 370 万人）といった目標を掲げているが、伊豆諸島地域における目標設定はない。また、各島においても具体的な目標設定はない状況である。

現在、東京都、東京観光財団、東京諸島観光連盟、各島自治体・観光協会等により、日本人・外国人を対象としたプロモーションとして、パンフレット、ウェブサイト、販促グッズ・映像等の制作が行われている。

また、東京都では、自然公園を活用したモニターツアーの実施、観光資源の開発・発信、電動アシスト自転車等の観光スポット間の移動手段の導入・活用に対する支援など、受入地域側の支援も多面的に展開している。

各島では、マラソンや自転車、ウォーキングなどスポーツを通じた大会・交流イベントが盛んに行われており、それらのイベントには多くの参加者が訪れている。



東京の多摩と島の観光情報サイト「TAMASHIMA.tokyo」

(<https://tamashima.tokyo/>)

## 2. 基本的な考え方

富士箱根伊豆国立公園において国立公園満喫プロジェクトを推進するための基本的な考え方を以下に示す。

- ・富士箱根伊豆国立公園の豊かな自然環境及び良好な風致景観の保護を大前提とした上で、適正かつ持続可能な利用を推進する。
- ・「国立公園満喫プロジェクトの今後の進め方について」（2018（平成30）年9月）に基づき、富士箱根伊豆国立公園において「効果的な誘客」及び「適正な利用の推進」を図るため、関係者と連携した総合的な施策を展開する。また、環境本省によるプロモーション等の国立公園全体に係る取組の実施状況等を踏まえつつ、役割分担のもと効果的な推進を図る。
- ・富士箱根伊豆国立公園全域を対象とする一方、国立公園満喫プロジェクトにおいて当公園に求められる役割を踏まえ、2020年までの重点事項として、「富士山地域」及び「箱根地域」におけるプロモーション及び受入環境の整備の推進を位置付ける。
- ・プロモーション等の取組の実施に当たっては、ターゲットを意識し、ターゲットに応じた手法や内容を検討する。また、首都圏からアクセスのよい富士箱根伊豆国立公園の立地を生かし、2019年のラグビーワールドカップ及び2020年のオリンピック・パラリンピックを訪れる多くの人々を効果的に誘客するためのプロモーションを行う。
- ・「効果的な誘客」を図る一方、外国人をはじめとする利用者の集中による混雑や交通渋滞等が発生している現状に鑑み、安全かつ快適な利用を推進する観点からの改善方策の検討・実施を進める。
- ・富士箱根伊豆国立公園の各地域において、関係者の合意等により国立公園満喫プロジェクトの趣旨に合致する取組を含め様々な取組が進められている現状に鑑み、国立公園満喫プロジェクトの推進に当たっては、関連する各種計画等との整合を図る。
- ・各地域において関連の取組を進めている関係機関等との連携・協力体制を強化し、富士箱根伊豆国立公園満喫プロジェクトの計画的かつ着実な実施を推進する。また、各地域における実施状況等を踏まえ、必要に応じて本方策の見直しを行うなど柔軟に取り組む。

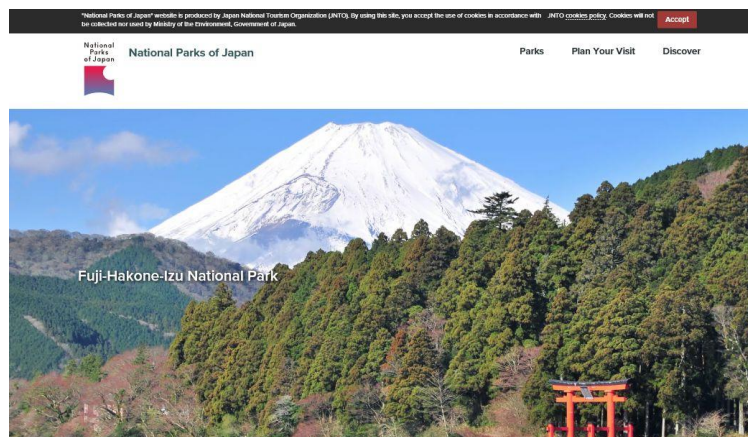
### 3. 国立公園満喫プロジェクトの推進方策

#### (1) 全域

##### ○国立公園全体のプロモーションとの連携

環境本省による国立公園全体のプロモーションの実施状況等を踏まえつつ、連携した取組を進める。

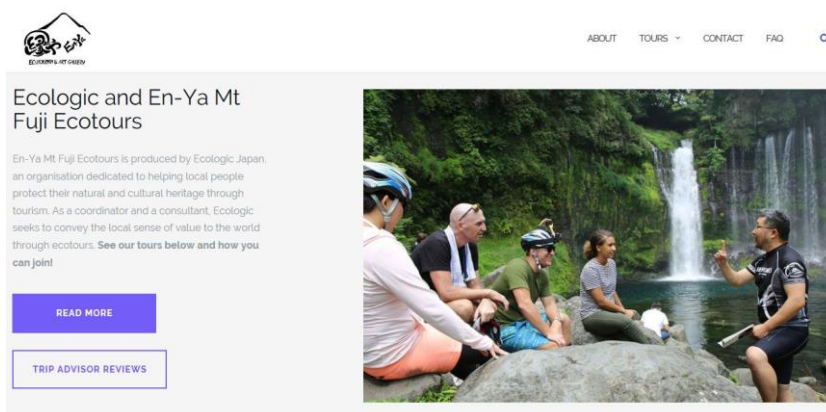
特に、2019（平成 31）年 2 月に日本政府観光局（JNTO）グローバルウェブサイト内に開設した「National Parks of Japan」（訪日外国人に向けた日本の国立公園の情報ウェブサイト）における情報発信を強化するため、富士箱根伊豆国立公園内のコンテンツ（アクティビティ、モデルコース等）のとりまとめ等を行う。また、当該サイトと各地域で開設されたウェブサイト（Explore Fujinomiya 等）との連携方策の検討及び調整等を行うとともに、国立公園オフィシャルパートナーと相互に協力しつつ、効果的なプロモーションを進める。



日本の国立公園の情報ウェブサイト「National Parks of Japan」  
(<https://www.japan.travel/national-parks/>)



富士宮市ウェブサイト「Explore Fujinomiya」  
(<https://www.travelfujinomiya.com/>)



ECOLOGIC and En-Ya Mt. Fuji Ecotours  
[\(https://www.mtfujiecotours.com/\)](https://www.mtfujiecotours.com/)



Explore Hakone (<https://explore-hakone.com/>)

富士箱根伊豆国立公園内のコンテンツ掲載サイトの例



## ○「富士山がある風景 100 選」の情報発信

富士箱根伊豆国立公園指定80周年を記念して、2017（平成29）年に実行委員会（環境省、関係都県、関係市町村）が選定した「富士山がある風景100選」※<sup>2</sup>について、情報発信を継続し広く一般の利用促進を図る。

特に、既存の情報発信媒体（ウェブサイトへの掲載、パンフレットの配布等）に加え、外国人利用者を意識した情報発信手法等の検討を行い、その結果を踏まえた情報発信を進める。



富士山がある風景 100 選パンフレット（英語版）（2018（平成 30）年作成）

※<sup>2</sup>：富士山がある風景100選

富士箱根伊豆国立公園指定80周年を記念して、富士箱根伊豆国立公園指定80周年記念事業実行委員会が、国内外の観光客を含めたより多くの人々に富士箱根伊豆国立公園の美しい自然に親しみをもってもらうため、代表的な富士山の展望地を「富士山がある風景100選」として選定したもの（2017（平成29）年3月）。

（参考URL）[http://kanto.env.go.jp/pre\\_2017/80\\_1.html](http://kanto.env.go.jp/pre_2017/80_1.html)

## （２）富士山地域

### ○富士山における適正利用推進

富士山における適正利用推進プログラム<sup>※３</sup>（2019（平成31）年3月 富士山における適正利用推進協議会）に基づき、「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けて、富士山における安全かつ快適な利用を推進するため、富士登山オフィシャルサイトの管理・運営及び富士山ガイドンス（仮称）の実施等により外国人を含めた利用者への情報提供・普及啓発の促進・強化を図る。

#### ○富士登山オフィシャルサイトの管理・運営

富士山における安全かつ快適な利用の推進に関する情報提供・普及啓発の中心的な媒体として、「富士登山オフィシャルサイト」を管理・運営する。特に「外国人を含めた利用者への情報提供及び普及啓発」の促進・強化を図る。

その際には、効果的な推進を図る観点から、ターゲットに応じた情報提供等の方法や内容を検討するとともに、試行的な取組も含め実施する。

#### ○富士山ガイドンス（仮称）の実施

ツアー会社や山岳ガイド等を対象に、安全かつ快適な利用の推進のために必要な情報提供・普及啓発を行う。また、参加者及び行政関係者等が相互に意見交換等を行う場を設け、適正利用推進のための効果的な取組や手法、官民の連携・協力体制を強化するための方策等の検討を進める。

#### ○富士登山における安全確保のためのガイドラインの普及啓発

「富士登山における安全確保のためのガイドライン」（2015（平成27）年12月改定）について、富士登山オフィシャルサイト及び富士山ガイドンス（仮称）等を通じて普及啓発を図る。

#### ○富士山における標識類総合ガイドラインの普及啓発等

「富士山における標識類総合ガイドライン」（2018（平成30）年12月一部改正）について、富士登山オフィシャルサイト等を通じて普及啓発を図る。

### 富士山における適正利用推進プログラムに基づく取組の概要

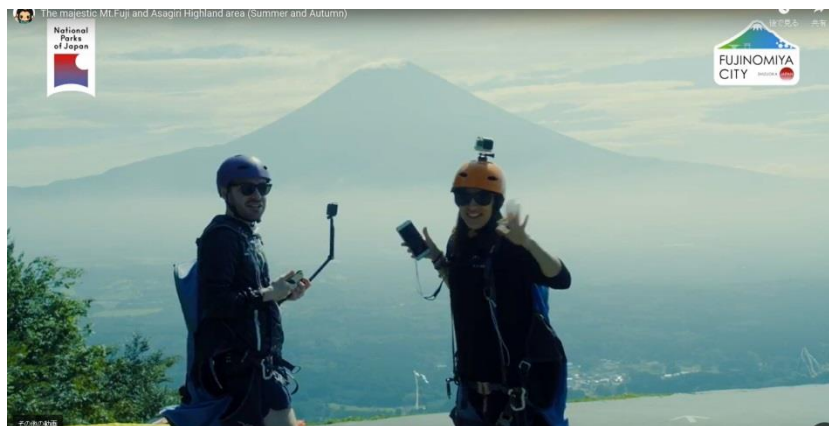
※３：富士山における適正利用推進プログラム

2019（平成31）年3月に「富士山における適正利用推進協議会」が、富士山を取り巻く状況の変化及び富士山における利用の現状と課題等を踏まえ、同協議会として取り組むべき事項の明確化を図り、富士山における適正な利用の推進に向けた取組を促進・強化するために策定したもの（計画期間：2019（平成31）年4月1日～2024年3月31日）。

## ○富士山麓地域の利用促進

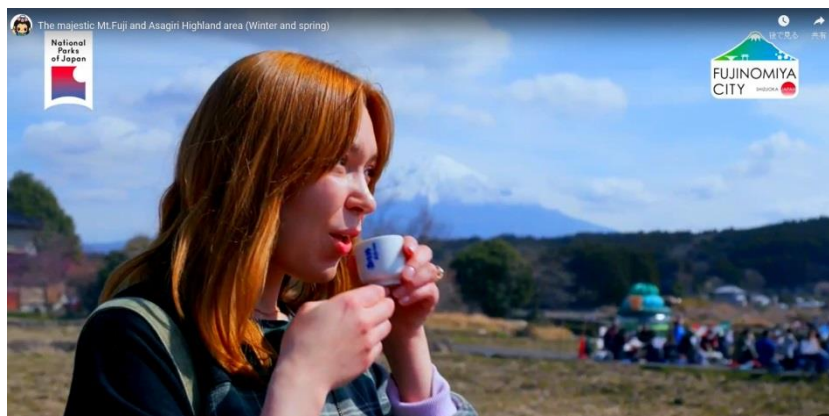
富士山麓地域における「効果的な誘客」及び「適正な利用の推進」を重点事項として、富士宮市による国立公園満喫プロジェクト展開事業の成果（プロモーション動画等）を活用し、富士宮市や地域のエコツアーガイド等をはじめとする関係者と連携したプロモーションを実施する。

プロモーションの実施に当たっては、欧米豪（特にオーストラリア）をターゲットとし、マーケティング調査型のファムトリップ等による外国人目線によるコンテンツの磨き上げ等を行いつつ進める。また、富士宮市等によるインバウンド施策との役割分担を行い、効果的な実施を図る。



The majestic Mt. Fuji and Asagiri Highland area (Summer and Autumn)

(<https://www.youtube.com/watch?v=wYkPr6nKWQg>)



The majestic Mt. Fuji and Asagiri Highland area (Winter and spring)

(<https://www.youtube.com/watch?v=8XeuYXIF4uM>)

展開事業により製作されたプロモーション動画（夏秋編、冬春編）





ABOUT TOURS CONTACT FAQ



Cycling tour starts here! Take up your mountain bike and helmet and after a safety briefing, from Spring to Autumn, we will enjoy a slow and easy ride down to the majestic Shirato Waterfalls. In Winter, we explore Nishiyama Honmonji temple.



Next, we ride to Satoyama village, through natural rural landscapes and rice fields, with Mt. Fuji in the background. Then it's time for lunch, where we enjoy hand-made Soba noodles with finely battered Japanese tempura made with locally grown vegetables.



In the afternoon, we visit the Sake Brewery, and learn about the sake making process from an 18th generation owner. Hear the family stories and try different types of Sake. In Summer it is too hot to visit the brewery, but we make our own Japanese shaved ice.

## Satoyama Village Cycling Ecotour

(<https://www.mtfujiecotours.com/tours/satoyama-village-cycling-ecotour/>)



ABOUT US

TOUR INFO



LOCATION

BOOK



## Fujikawa River RAFTING

(<http://www.naturalaction.co.jp/en/tour/>)

外国人目線によるコンテンツの磨き上げ



## ○須走口五合目園地の検討

富士山における適正利用推進の観点から、須走口五合目における安全登山に係る情報提供等の充実に向けて、富士登山と周辺探勝の拠点としての園地について、小山町をはじめとする関係機関等と連携・調整しつつ、公園計画の一部変更（園地事業の追加）に係る手続き、園地内における各事業の基本的な考え方・役割分担等の検討を進める。



須走口五合目の位置図



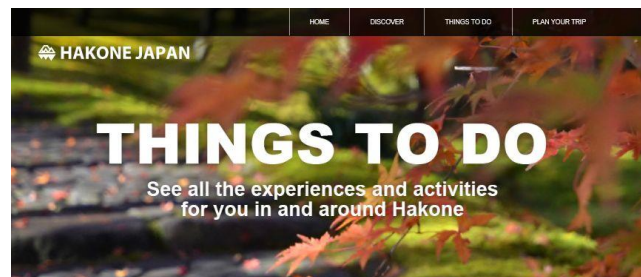
須走口五合目園地イメージ

### （３）箱根地域

#### ○プロモーションの推進

箱根町及び箱根 DMO（一般財団法人箱根町観光協会）をはじめとする関係者と連携したプロモーションを実施する。

プロモーションの実施に当たっては、欧米豪（特にアメリカ、オーストラリア）をターゲットとし、マーケティング調査型のファムトリップ等による外国人目線によるコンテンツの磨き上げ等を行いつつ進める。なお、ターゲットについては、箱根町 HOT21 観光プラン基本計画（2018（平成 30）年 3 月）の観光戦略を踏まえ、「東京都・神奈川県を中心とする首都圏からの来訪者」についても意識する。また、箱根地域では箱根 DMO など様々な事業者等によるインバウンド施策が進められていることから、それらの施策との役割分担を行い、効果的な実施を図る。



There are many things to do in Hakone to make your visit memorable. Visit Hakone anytime of year to see and experience something special and different. There are the changing colors of nature, seasonal festivals and events, outdoors activities, tours, and much more. the most popular things to do in Hakone are enjoying the many hot springs.

HAKONE JAPAN（英語サイト）（箱根 DMO）

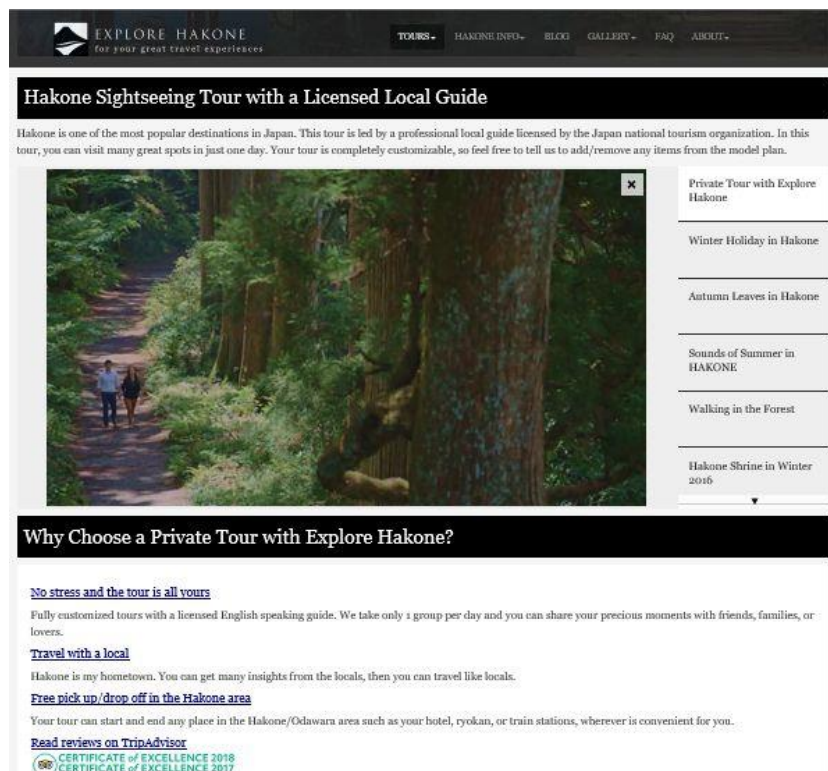
(<https://hakone-japan.com/>)



箱ぴた（中国語（簡体）サイト）（箱根温泉旅館ホテル協同組合）

(<http://www.hakone-chinese.com/>)

箱根地域における多言語によるウェブサイトの例



Hakone Sightseeing Tour with a Licensed Local Guide  
[\(https://explore-hakone.com/private-tour/\)](https://explore-hakone.com/private-tour/)

外国人目線によるコンテンツの磨き上げ



<https://weibo.com/1781462195/HiAUwvCgX>  
<https://www.weibo.com/1781462195/HiKmgcbTo>

JNTO を通じた WEIBO への情報発信（2019（平成 31）年 2 月）  
 ※在日中国人へのヒアリングを踏まえ訴求力の高い写真を配信



### ○箱根ビジターセンターの機能強化

富士箱根伊豆国立公園（特に箱根地域）における受入れ環境整備の一環として、箱根ビジターセンターのリニューアルをはじめとする機能強化について、環境本省による「国立公園ビジターセンター等案内機能強化業務」（デジタルサイネージの導入等）と連携しつつ取組を進める。

リニューアルに当たっては、展示について「多言語対応」及び「デジタル技術」の観点から充実を図るとともに、上質で居心地のよい滞在空間を創出するための工夫を施す。また、同ビジターセンターがパークボランティアの活動拠点となっていること等も踏まえ、自然ふれあい活動を含めた利用拠点としての機能の充実化に向けて、ビジターセンタースタッフ及びパークボランティアとの連携・協力による管理体制等について検討を進める。



箱根ビジターセンター



箱根ビジターセンターを拠点とした自然観察会



## ○利用動線の魅力創出に関する検討

箱根地域の利用集中期における交通渋滞の発生等による快適な利用を推進する上での課題解決に向けて、ビッグデータを活用した交通動態の把握及び関係者からの意見聴取等により現状分析を行い、利用動線の魅力創出の観点からの改善方策（利用分散、複数のアクセス提案、情報発信等）の検討を進める。



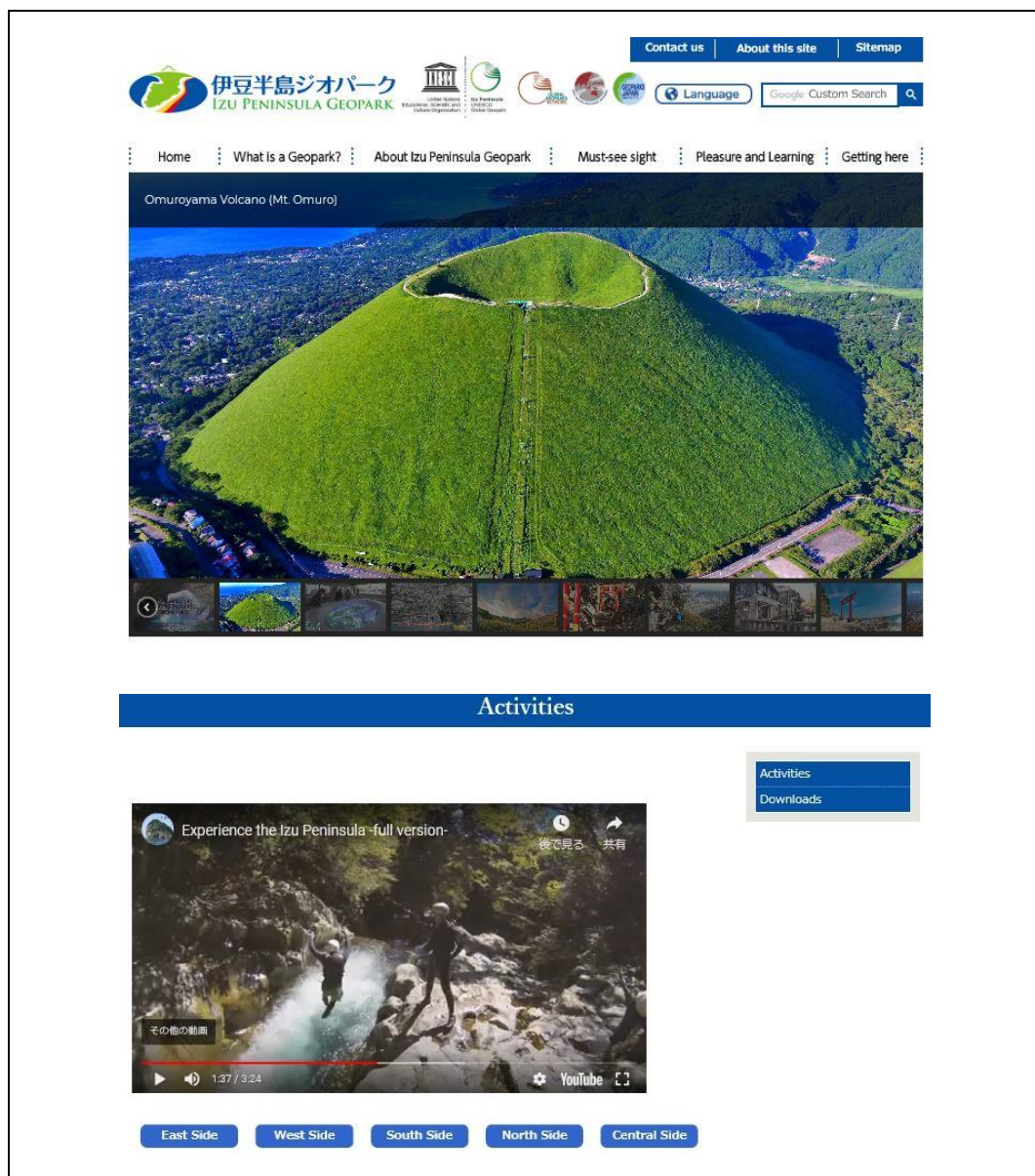
利用動線の改善方策の検討

#### (4) 伊豆半島地域

##### ○伊豆半島世界ジオパークとの連携

伊豆半島ジオパーク推進協議会をはじめとする関係者と連携し、伊豆半島世界ジオパークの取組状況等を踏まえつつ、訪日外国人向けウェブサイト「National Parks of Japan」へのコンテンツの掲載等を通じたプロモーション（伊豆半島世界ジオパークの情報発信、アクティビティの紹介等）を行う。

また、同協議会による地域循環共生圏づくりに向けた取組に対して、国立公園（伊豆半島地域）との連携の観点から必要な支援等を行う。



伊豆半島ジオパークウェブサイト（英語サイト）

(<https://english.izugeopark.org/>)

## (5) 伊豆諸島地域

### ○伊豆諸島魅力創造事業の推進等

伊豆諸島における自然文化資源の活用により地域経済の活性化及び持続的な保全を目的とする「国立公園伊豆諸島における自然文化資源を活用した魅力創造事業」を推進し、各島における地域ビジョンのとりまとめを行うとともに、公園区域及び公園計画の見直しに向けた検討を進める。

また、各地域におけるインバウンドに対する意向及び関連する取組状況等を踏まえつつ、訪日外国人向けウェブサイト「National Parks of Japan」へのコンテンツの掲載等を通じたプロモーションを行うなど連携した取組を進める。



Natural Parks in Tokyo

(<http://www.kankyo.metro.tokyo.jp/naturepark/english/index.html>)



Learn the Reasons Why Mikurashima Island is Called "An Island of Miracles" by Experiencing its Mystical Forests and Ocean Born from a Harsh but Beautiful

TAMASHIMA.tokyo (<https://tamashima.tokyo/>)

伊豆諸島における多言語によるウェブサイト・コンテンツの例